



令和5年11月14日

南陽市議会議長 船山 利美 殿

会派会長 片平 志朗

令和5年度、真政会の派先進地行政視察等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容
調査期日	令和5年10月16日(火)～17日(木) 1泊2日
調査場所	①宮城県石巻市 一般社団法人日本カーシェアリング協会 ②宮城県石巻市 <small>かどのわき</small> 門脇カーシェアリング会との交流 ③宮城県石巻市震災伝承施設見学 石巻市門脇町5丁目1-1 ○伝承交流施設 MEET 門脇 ○みやぎ東日本大震災津波伝承館
調査目的	石巻市 ①コミュニティー・カーシェアリングについて ②石巻市 門脇カーシェアリング会との交流 ③東日本大震災の伝承について
調査概要	別紙のとおり
その他	片平志朗・板垣致江子・高橋一郎議員(3名)

①石巻市「コミュニティー・カーシェアリング」について

説明者 石巻市復興企画部課長佐藤宏幸様・日本カーシェアリング協会代表理事吉澤武彦様

日本カーシェアリング協会山下知晃様

コミュニティー・カーシェアリング誕生の背景

石巻は2011年3月、東日本大震災の大津波で沿岸部を中心とし都市が破壊されて、多くの犠牲者を出した地域。今は防潮堤や高台に宅地開発された場所に新築住宅や復興住宅が立ち並び、当時の様子は伺え知れない。当時津波で市内だけでも6万ほどの車が流され、交通の足が途絶えたことにより、日本カーシェアリング協会のご協力で車が貸し出されたことがカーシェアリング始まりだった。以来、復興住宅への入居も進み、生活の基盤が出来る。しかし、入居者の高齢化や運転免許返納などで、交通手段に困窮する人が多く生れ、「寄付車」を活用してのコミュニティー・カーシェアリングが各地で取組まれようになった。現在では市内に11地域の方々がコミュニティー・カーシェアリングに取り組まれている。また石巻以外では14地区(延べ会員約1000人)で取組みされており、少しずつその輪が広がり初めている。

調査目的

超高齢化社会の中で、高齢に伴い運転免許返納や交通の不便な地域に生活しているため、移動手段が困難な交通弱者が増加している。地域公共交通と移動支援が喫緊の課題である。

こうした中で、先進地の石巻市のコミュニティー・カーシェアリングが誕生し、移動支援や地域コミュニティの再生に取り組まれている。

誕生した背景は全書したとおりですが、下記の点について調査したい。

- ①寄付車を活用しての移動支援はどのよう行っているのか。
- ②移動支援はどの様な時にあるのか。
- ③料金の扱いはどのよう行っているか。
- ④会の運営方法について(配車方法・経理や決算・運転手の人材確保等)
- ⑤呼びかけから設立までの流れ。
- ⑥コミュニティー・カーシェアリングの良い点と課題は。

※上記の回答については別添の説明会資料に替えさせていただきます

コミュニティカーシェアリングの3つの特徴について

I. 目的は支え合う地域づくり

一般のカーシェアリングと大きく異なる点は、地域コミュニティ(ご近所さん同士)がカーシェアリング(車の共同利用)を通じて様々な活動を行い、自ら運営することで、「支え合う地域づくり」を目指していること。

II 地域の皆さんで運営

ルールと役割を自分たちで決めて、サークル活動を運営。月に1度くらいのペースで「おちゃこ」(サロン活動)を行い、ルールの調整や役割分担を無理なく行いながらの運営している。

III 経費実費を平等に分担(利用割合に応じて)

活動で発生する経費(車両維持費、燃料代等)はルールに基づいて利用割合に応じて平等に分担する。最終的には余剰金ができれば割り戻しし、赤字になれば分担するので±0の決算となる。

②門脇カーシェアリングの会との交流



門脇カーシェア会と交流様子

当日は日本カーシェアリング協の山下さんの案内で門脇地区にある復興公営共同住宅にある集会場に案内された。6名の会員達が私達を待っていて下さった。年齢的には70歳代から80歳代の方々である。

石巻市門脇地区の災害復興公営共同住宅は市内より車で10分程の距離だが、海辺の近くに建設されており、周辺には店舗もなく買い物に少し不便な場所であった。

門脇カーシェア会は2020年に設立され、現在会員は42名。一人一人から自己紹介してもらい、会の活動に参加しての感想など話してもらった。ほとんどの方は、移動支援に助かっており、新しい地域の仲間が出来て良かったと話されていた。会の活動内容は外出、買い物等の移動支援の他に、旅行やお茶っこ会等行っている。本市のサロンの役割も担っていることが分かった。会の合言葉は「とにかく集まる、お話しする」ことだと言われる。そこには会員達の生き生きとした姿が感じられた。

地域の足をどうするのかと言う課題解決の裏側には、地域のコミュニティの再生と言うもう一つの課題も隠されているのではないかと考える。カーシェアリングを基本に高齢者が地域で生き生きとした生活が募れる事は大切なことである。石巻も震災から始まったが、今や全国的な課題でもある。

考 察

- 移動支援と地域コミュニティの再生は密接に繋がっている事
- 国のライドシェアの取組みとは異なる事(ライドシェアは移動支援のみ特化)
- これからの超高齢化社会に求められている
- 本市のシェアの取組みが不十分である事

以上の点が考察としてあげられる

③東日本大震災の伝承について

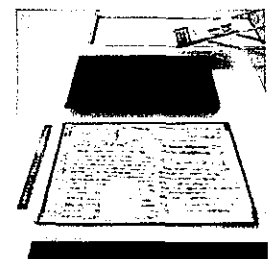
震災から12年経ち現地の景観も新たに都市整備され、当時の惨状を思い知るものは見当たらない。しかしながら、災害を忘れてはならない現地の人々の思と国の意向により、様々な伝承施設が建設や活動が行われている事に、あらためて感心させらる。

石巻市門脇地区の南浜津波復興記念公園内に建設された震災津波伝承記念館もその一つである。

■開館時間 10:00~17:00(最終入館16:30) / 水曜定休

●有料エリアの入場券は受付でお買い求めください。
●物販のお会計も受付で承ります。

ミュージアムショップでは、MEET 門脇のオリジナル商品や、東日本大震災で被災した地元企業とのコラボ商品等をお買い求めいただけます！



◎地域団体からのご協力による展示

震災発災直後から壁新聞で地域の被災状況を伝え続けた石巻の地域紙「石巻日日新聞」や、被災し流された後奇跡的に発見された石ノ森萬画館のシンボル「シーエッター海斗」。

MEET 門脇では、日日新聞の壁新聞現物の一部と、他数枚をデジタルで展示、被災したシーエッター海斗の現物を展示しています。

◎南浜つなぐ館(MEET)からのご案内

南浜つなぐ館は、石巻南浜津波復興祈念公園内、市民活動拠点で運営している伝承施設です。

震災前の南浜・門脇地区の懐かしい画像や、シアターで上映する変わりゆく地域の状況、祈念公園内市民活動拠点に参画している団体の活動の様子を説明したパネルなどを展示しています。



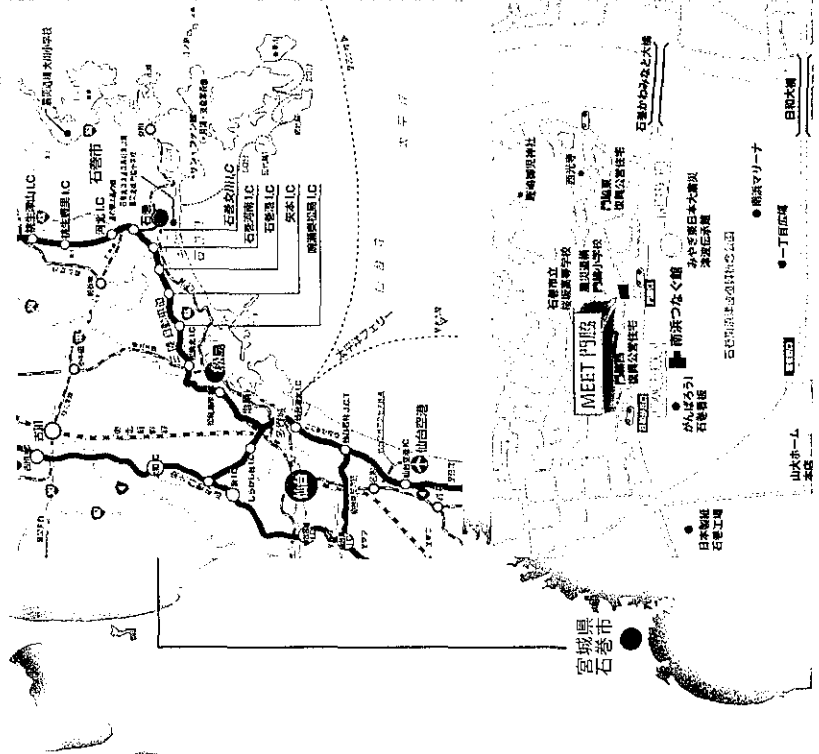
◎震災伝承基金へのご寄付について

私たちの活動にご理解、ご協力頂きました皆様、心より御礼申し上げます。

市民活動に対する行政の復興予算が限られる中、民設民営での伝承施設維持は、皆様からのご寄付により成り立っています。地域と共に意義ある活動を継続して参りますので、一層のご協力を願っています。

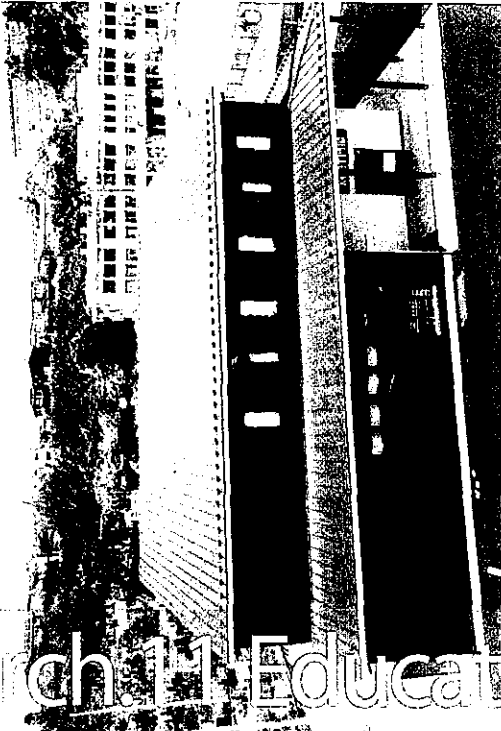
- 1 銀行振り込み
 - 七十七銀行石巻支店
 - 普通口座：9244883
 - 口座名義：公益社団法人311メモリアルネットワーク
 - フリガナ：シヤ、サンイチチメモリアルネットワーク
- 2 郵便振替
 - ゆうちょ銀行
 - 02230-1-119977 公益社団法人311メモリアルネットワーク

公益社団法人への寄付は、控除の対象となります。領収書の発行が必要な方は、事務局までお問合せください。



March 11 Education & Exhibition Theater

伝承交流施設
MEET 門脇



March.11 東日本大震災

3.11を原点に
津波と火災で覆われたこの場所を出会いの場へ

Education 防災教育

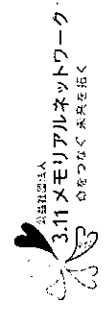
つながる人々が変化する
3.11を知らない世代の子どもたちへ
体験を通じた学びの場を

Exhibition 展示

悲しみと願いを示す
大切な命を失った悲しみを、
あなたを守る願いにかえて

Theater 映像シアター

命を守る希望を伝える
「あの日」の100名の避難行動をもとに、
命を守る希望を2面シアターで上映



〒986-0834 宮城県石巻市門脇町5丁目1-1
TEL 0225-98-3691 FAX 0225-98-3692
HP <https://311memorial-network.com/>

Meet 3.11, Act for the Future

3.11でつなごう 未来のために動きたい



●2面投影シアター

地域の方への啓蒙から書き出された「避難の連鎖」について、被災者自らが発見も含めて語った動画を、12m×3.5mの2面シアターで上映しています。

○避難の連鎖(避難カスケード)に着目

「あの日」の避難を語った被災者の声。その公道から書き出された「避難の連鎖」を軸に、迅速な避難の大切さを伝えたい。



避難行動の聞き取りから浮かび上がった「避難の連鎖(カスケード)」。

震源地の津波の映像や、被災者の証言、それを再現したCG映像等をご覧いただきながら、3月11日にこの場所が起こった避難の連鎖と、迅速な避難により「人のつながりを守る命」があることを伝えたい。

○ボランティア、NPOの貢献

震災直後から地域を支えた、ボランティア・NPOの力。



東日本大震災では、震災直後から最初の1年間に累計28万人ものボランティアが集まり、被災地の大きな支えとなって活動しました。

あの時、石巻に集まった人たちが、どんな思いで何を成し遂げたのか。どのような変化の中で活動を続けてきたのか...実際の活動について語りたい。



●避難経路プロジェクトマップが、被災物展示

あの日、石巻市南浜・柳田地区などの被災地を、避難が行われたのか、100人以上から聞き取り、避難経路を、シミュレーションマップで可視化しました。被災者の方から聞き取り、被災物展示しています。

○被災物展示

繰り返してほしくない。この靴は絶対見てほしい。(ご遺族の言葉)

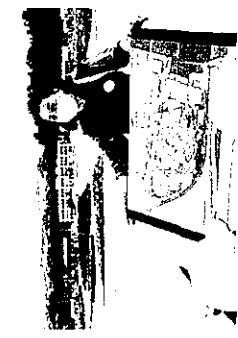


日和幼稚園バスで被災された園児のご遺族より貸与いただいたグリーングラスと上履き、ごくなったお祖母さんがお持ちくださった、お孫さんとお揃いのリュックなどの被災物を展示。

お預かりした被災物を通して、ご遺族の「同じ思いをする人がないよう」への願いを伝えたい。

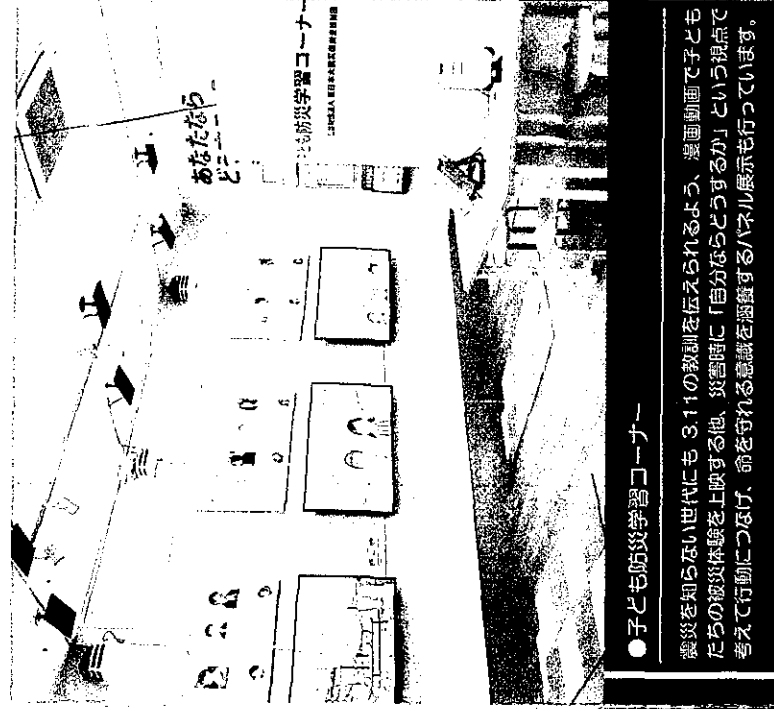
○教育旅行の拠点に

震災学習プログラム+伝承施設見学で学びを深める



石巻南浜津波復興祈念公園に隣接し、みやぎ東日本大震災津波伝承館や震災遺構門脇小学校にも近いMEET門脇では、徒歩圏で複数の伝承施設を巡る震災学習プログラムの予約受付を行っています。

オリジナルの津波伝承ARアプリを活用したプログラムもご提供しています。



●子ども防災学習コーナー

震災を知らない世代にも3.11の教訓を伝えられるよう、漫画動画で子どもたちの被災体験を上映する他、災害時に「自分ならどうするか」という視点で考えて行動につなげ、命を守る意識を醸成するパネル展示も行っています。

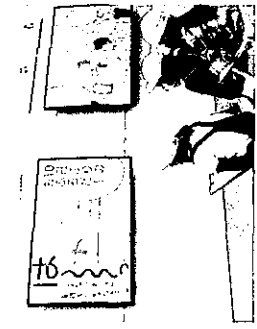
○被災体験漫画動画

「あの時、こともなかった私たちがからつたえたいこと」

東日本大震災当時、小学生～大学生だった被災者6名の体験

震災当時、小学生～高校生だった被災者の若者6名の体験を、漫画動画でお伝えしています。

漫画にすることで、震災を知らない世代の子どもたちにも伝わりやすく、子どもならではの視点での震災体験とメッセージを次の世代につなげたい。



○オンライン震災学習プログラム

現地に来られなくても、オンラインでリアルタイムにリアルタイムに学びの機会を

震災学習プログラムを現地で受けたいが難しい、という場合でも、オンラインで屋内、屋外から手軽にしながら震災学習プログラムを受けたいだけのことが可能です。

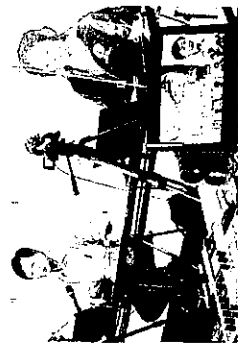
開催時間:30分～(ご相談ください)

開催料金(税込)

・屋内:33,000円~/団体

・屋外:66,000円~/団体

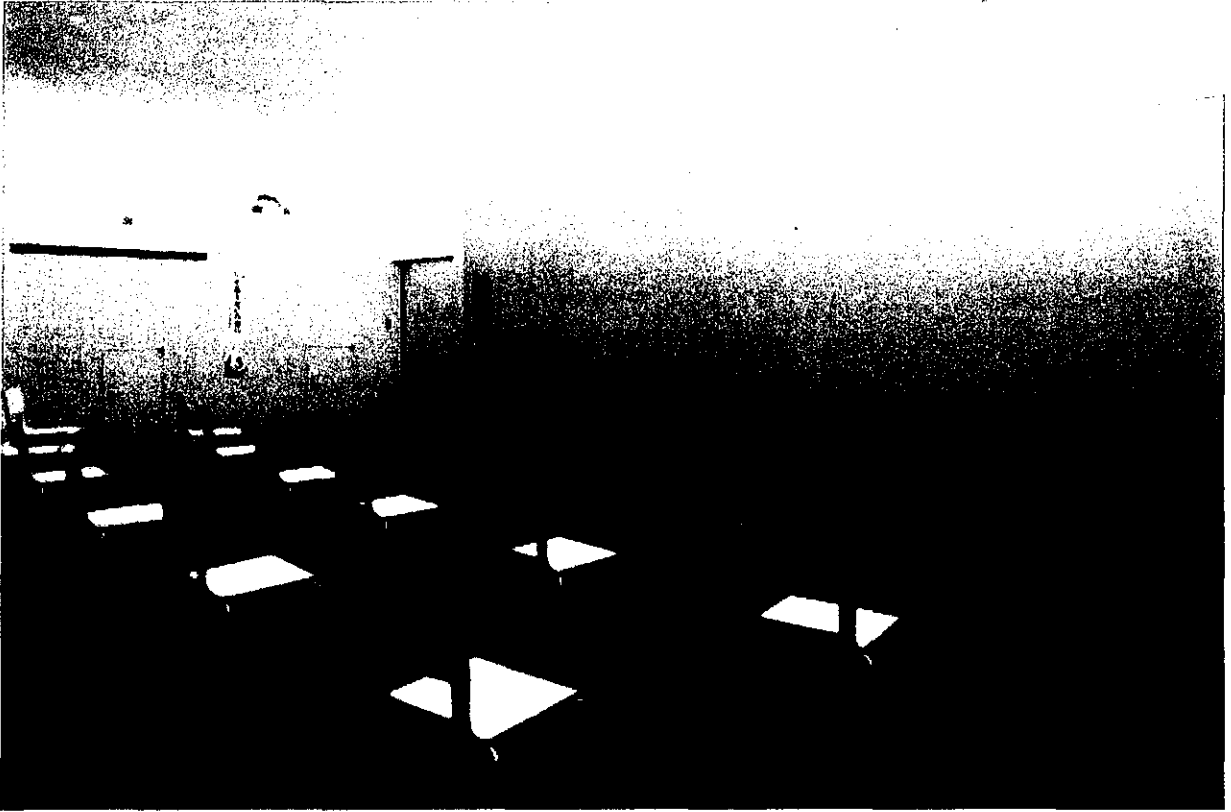
※詳細はお問い合わせください



みやぎ東日本大震災津波伝承館



内部展示ギャラリー(1部外観)



パノラマ式大スクリーンで震災状況を上映

紹介

震災の記憶と教訓を伝え継ぐ 「みやぎ東日本大震災津波伝承館」

石巻駅から車で、約10分の場所にある、石巻南浜津波復興祈念公園内に震災の記憶と教訓を語り継ぐみやぎ東日本大震災津波伝承館が整備されました。

2011年3月11日午後2時46分に発生した、東日本大震災で甚大な被害に見舞われました。

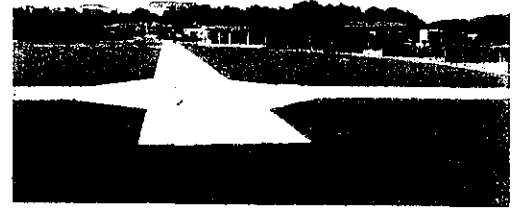
この悲しみと混乱を繰り返さないために、東日本大震災の記憶と人々と地域が力を合わせて歩み続け、後世に伝えてゆくこと、

震災の記憶を確かめ合い未来への誓いを新たにするための場として整備されました。

次なる災害への備えを確かなものにできるよう、全国、世界、そして次世代の人々と繋がり、発信と交流が出来る施設です。

石巻南浜津波復興祈念公園

復興祈念公園は、宮城県、さらには被災地全体のかなめとなる復興祈念公園として、この地のみならず東日本大震災で犠牲になられたすべての生命（いのち）に対する追悼と鎮魂の場となるとともに、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝える拠点となり、さらには、かつて市街地であった場所に公園の整備を通じて人々が係わり、人と人との絆、つながりを築いていくことにより、東日本大震災からの復興の象徴となるよう整備されております。公園が整備された南浜地区は、特に被災が大きく、地震、津波、火災及び地盤沈下の被害を複合的に受けており、東日本大震災の平野部の被災を代表する場所となっています。



記念公園と震災津波伝承館

震災遺構「門脇小学校」

児童の保護者らも迎えに学校に来ていたが、安全が確認できないとして保護者も山に登らせた。校舎には新たに避難してくる人を誘導するために4人の職員が残っていた。やがて住宅や電柱をなぎ倒して津波が押し寄せてきたため、校舎に残っていた40人の住民と職員も急いで山に避難した。

当校では、かねてより裏山への避難訓練が実施されていた。そのため、未曾有の大地震があった際の意味決定でも揉めることなく、教師・児童・保護者に至るまでスムーズに避難が行われた。震災により、すでに下校していた児童のうち7名が死亡したが、在校していた児童は全員無事であった。適切な避難ができずに過半数の児童が死亡した石巻市立大川小学校とは対照的な結果となった^[2]。

当校がある地区での津波の高さは6メートルを超え、校庭に停めてあった保護者の車を含め多数の自動車が流された。やがて漏れ出したガソリンが引火して校舎は炎に包まれた。消防庁によると当校の付近では56,100 m²もの土地が延焼した^[4]。また、津波と余震のために消火活動ができず、火災は3日間継続した。児童たちは4か所の避難所に分かれて生活した。

震災により学区内の児童が減少し、今後も増加が見込めないため2015年をもって石巻市立石巻小学校と統合し、閉校した^[5]。



震災から1か月後（2011年4月）の当校

『コミュニティ・カーシェアリング』視察プログラム
コミュニティ・カーシェアリングについて

令和5年10月17日

**一般社団法人日本カーシェアリング協会
コミュニティサポート事業部 山下知晃**

〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り一丁目5番23号
TEL : 0225-22-1453 FAX : 0225-24-8601
Mail : info@japan-csa.org URL : <http://www.japan-csa.org/>

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

日本カーシェアリング協会とは

東日本大震災をきっかけに活動を始めた
「寄付車」を活用して支え合いの仕組み
作る非営利組織

- ・2011年4月活動開始、同年7月に法人化
- ・所在地：宮城県石巻市(本部)
佐賀県武雄市(九州支部)
栃木県栃木市(栃木支部)
静岡県富士市(静岡支部)
- ・スタッフ 39名
- ・活用車両台数 約490台



次の3つの活動を通して
その仕組みづくりを進めています。



車をシェアして支え合う仕組みを
地域につくる
『コミュニティ・カーシェアリング』



寄付車を貸し出すことで
人と地域を元気にする
『ソーシャル・カーサポート』



災害時に車で困らない
仕組みをつくる
『モビリティ・レジリエンス』

『ソーシャル・カーサポート』 『モビリティ・レジリエンス』

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.



車をシェアして支え合う仕組みを 地域につくる 『コミュニティ・カーシェアリング』

Copyright © 2011 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

取り組みの背景

当時の仮設住宅の状況

移動に困っていた。

- ・車を失った。(石巻で約6万台被災)
- ・仮設住宅が不便な場所に設置されていた。

コミュニティが作れなかった。

- ・抽選入居のためご近所が見ず知らずの方々。
- ・世話役を誰も引き受けられない(自分のことで精いっぱい)。
- ・人と交流する気力が生まれにくい。



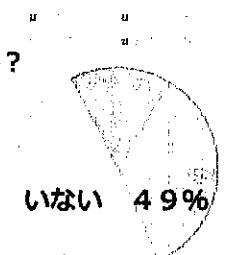
石巻市内で建設された
仮設住宅(134箇所)

今の復興住宅の状況

高齢化(家賃が収入に応じて変わる)・交通弱者・孤立。

コミュニティ作りが必要。

Q.団地内に仲のいい
知り合いはいますか？



Copyright © 2011 Japan Car Sharing Association.

『コミュニティ・カーシェアリング』の特徴③

高額な車代を他社に
預けて共同で利用する仕組み

全体の一割使用したから
費用を一割負担

一時的に預かる金額のルールをつくり、そのお金で運営し、
利用頻度に応じた経費実費の分担となるように、
定期的に精算しています。



預けたお金を定期的に精算しながら運営

Copyright © 2011 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

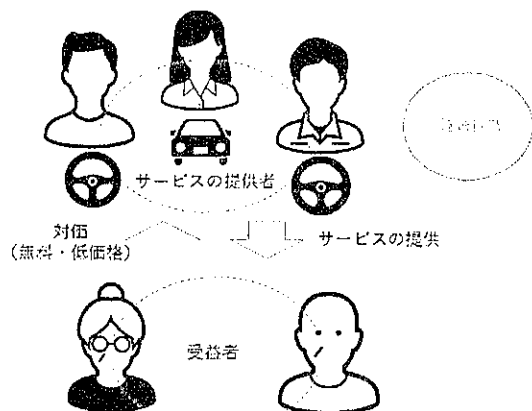
✂ ポイントは活動の組み合わせ



サロンとツアーと外出支援を組み合わせ、支え合う地域と継続的な活動を作ります。

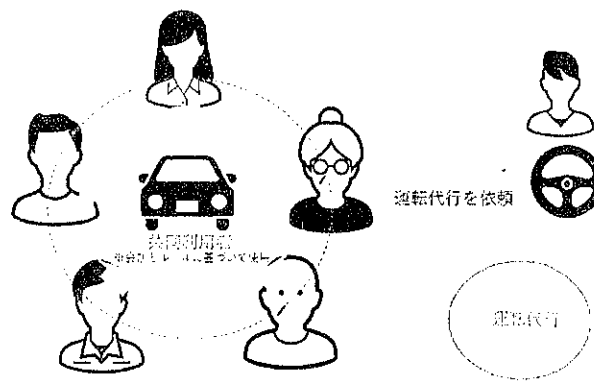
従来の移動支援（NPO送迎・ライドシェア）との違い

従来の移動支援



サービスの提供者が責任を持ち、対価を払う受益者が権利を持つ

コミュニティ・カーシェアリング



メンバーが同じ権利と責任を持つ互助活動 (会則とルールで定める)

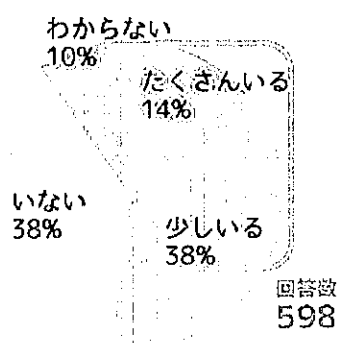
スタッフもお客さんもない、利益も赤字もない、互助活動

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

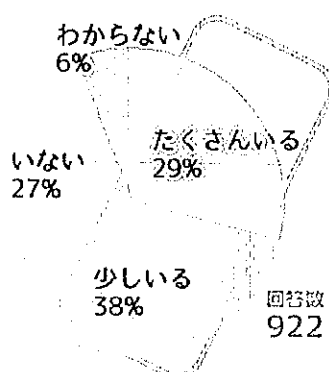
アンケート結果① (復興公営住宅12箇所)

Q. 仲のいいお知り合いはいますか？

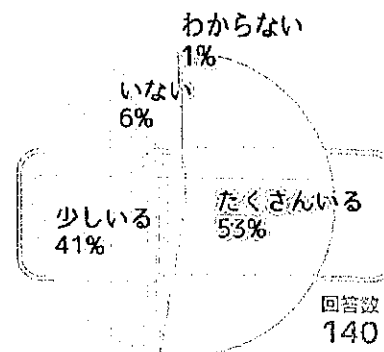
導入していない地域



導入している地域



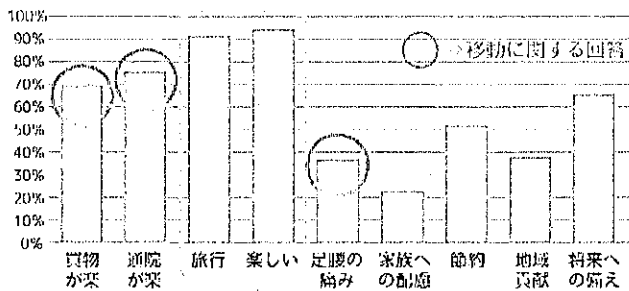
会員



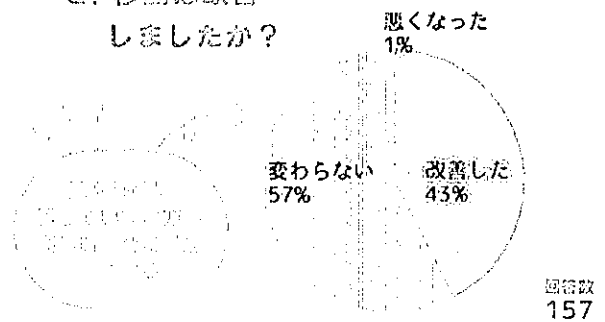
Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

アンケート結果②

Q. 〇加している理由は何ですか？（複数回答可） 回答数 204



Q. 移動は改善しましたか？



参加理由は「楽しいから」

※石巻で運営されている10地域のカーシェア会の会員に行ったアンケート結果です。 実施時期2019年10月～12月

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

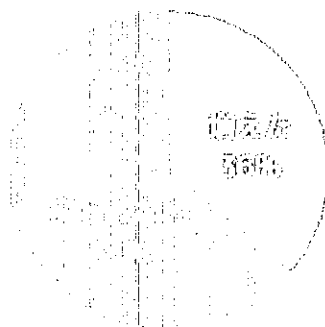
高齢者に対する効果的な介入の観点から

- 身体的な面（身体機能）
- 心理的な面（認知機能）
- 社会的な面（生活満足度）

閉じこもり防止につながり、要介護・要支援、軽度認知機能低下、うつ傾向・うつ状態の方にもプラスの効果を確認されている。これらのことから、介護予防にもつながる意義を持つと考えられる。

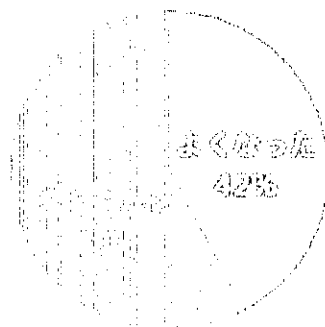
身体効果

外出頻度の変化



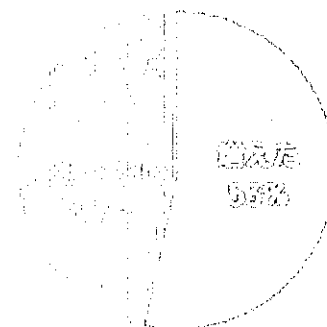
心理的効果

ふだんの気持ちの変化



社会的効果

挨拶や世間話をする相手の変化



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

『コミュニティ・カーシェアリング』の得意なこと、苦手なこと

得意なこと

・気軽に始められる

(公的な申請や調整が不要、車とルールの雛形がある、伴走的なアドバイスを得られる)

苦手なこと

・安定したサービスは提供できない

(ボランティアで運営)

交通機関の代替えではなく補足

Copyright © 2001 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

日本カーシェアリング協会のサポート

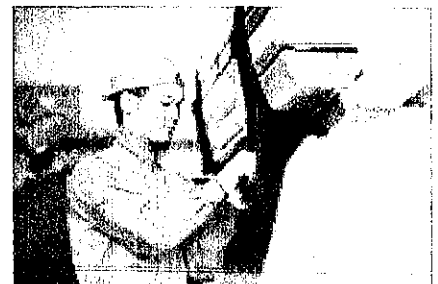


導入サポート

- ・地域調整
- ・説明会
- ・テスト運行

運営サポート

- ・ルール調整
- ・各種企画サポート
- ・広報・総会実施補助



地域連携

- ・行政
- ・企業
- ・教育機関等

Copyright © 2001 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

地域連携（石巻市での事例）

企業が受ける「CSSスポンサー制度」 産

活動経費の一部をスポンサー企業がサポートする制度です。企業側は地域へ直接的な支援を行うことができ、また地域とのかかわりを深めることができます。



▲石巻市が貸出車のスポンサーになっていました

官が受ける「地域力強化推進事業」 官

導入を希望する地域には協会スタッフを専門家として派遣し、導入後は経費の一部を一定期間助成しています。定期的に政策連携の検討会議も関係課を交えて行っています。



▲協会の活動の様子

学生が受ける「学生生活支援プロジェクト」 学

毎年春と秋にタイヤやオイルなどの用品交換を授業の一環として実施していただいています。

名取学院大学のプロジェクトの様子▶



民が受ける「地域力強化推進事業」 民

会の運営に積極的な会員に対し、ちらしづくり、ファシリテーション研修などを行い、運営スキルを獲得していただきます。

パソコン講座の様子▶



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

『コミュニティ・カーシェアリング』実践グループ紹介

※2023年5月時点

吉野町カーシェア会



のぞみ野カーシェア会



大門町カーシェア会



貞山廻河カーシェア会



あゆみ野カーシェア会



源波カーシェア会



三ツ股カーシェア会



狭浜地区カーシェア会



門脇カーシェア会



中央カーシェア会



山下南カーシェア会



永江さかえ豊カーシェアクラブ
(鳥取県米子市)



小鴨カーシェアクラブ
(鳥取県倉吉市)



上北条ふれあい車会
(鳥取県倉吉市)



杉田3.4区まちづくり
協議会
(静岡県富士宮市)



助け英田しちやろう会
(岡山県美作市)



葛川イキイキサークル
(滋賀県大津市)



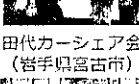
大山カーシェアリング会
協議会
(鳥取県大山町)



小鳥の森カーシェア会
(岡山県岡山市)



松の葉フレンド
(宮城県登米市)



田代カーシェア会
(岩手県宮古市)



林蔭カーシェア会
(宮城県南三陸町)



のってこや
(鳥取県大山町)



竹野カーシェア部会
(京都府京丹波町)



上浜田アッシー音
(岩手県陸前高田市)



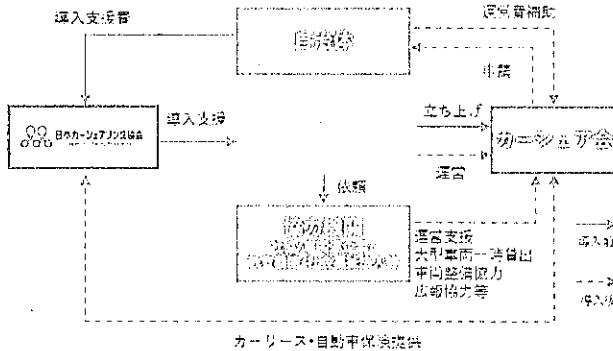
25地域、約1,000名の方々（平均年齢75歳※石巻）が取り組む

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

様々な地域へ展開

『コミュニティ・カーシェアリング』 導入サポートプログラム since2018~

<自治体依頼の場合の導入体制図>



公的機関へ同伴



説明会



テスト運行・ルール調整



カーシェア会発足

遠方でも伴走的にサポート（内閣府・総務省のアドバイザー制度利用可）

Copyright © 2011 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

CCS導入のステップ

CCSの基本的な導入ステップは、以下のとおりです。実施地域をまず確定させてから、地域での説明会やテスト運行などを行った上で、本格的な運行に移っていきます。

	1. 実施検討	地域のキーマンが集まる場等で事例紹介を行い、ニーズを確認した上で実施及び導入地域を決める。	
	2. 地域調整	テスト運行、本運行の流れ、車両の手配について実施が決定した地域の関係者と整理する。また、運輸支局等との調整を行う。 ニーズ・協力者・ドライバー、利用者の候補となる方を把握する地域のニーズを確認の上テスト運行に向けてのアレンジを確認する。テスト運行開始説明会の広報を行う。 テスト運行で使用する車両の運搬と駐車場所の確保を行う。	
	3. 説明会	カーシェアリングの趣旨説明、テスト運行ルール説明、テスト運行の実施同意取得	
	4. テスト運行	2ヶ月程度のテスト運行、利用者の感触把握、ルールの調整 カーシェア会設立に向けた準備 (会則・ルール策定、役員選任、車両登録・契約、保険契約他手続き)	
	5. 会設立総会	カーシェア会の正式発足 ※JCSA公認CCS会員サポート制度登録（必須）	
	6. 本運行	広報活動、日常の予約管理・運行 日帰り旅行の企画・実施 車両の管理	
	7. 研修	地域サポーター（運営の核となる担い手）の人材育成研修（別添オプショナル）	
	8. 会合・総会	定期会合（お茶っこMTG月1回） 総会（年1回）	

Copyright © 2011 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

事故した時どうなるの？

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

事故に関するルール

1. 保険の範囲内での補償のみ。
2. 運転者を責めない。
3. 賠償を求めない。

会則でルール化し、同意者（家族も）のみ参加

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

なぜ専用車を使うの？

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

専用車を使う理由

1. 経費がはっきりする。 (助成金等〇)
2. ドライバーの負担減。 (保険と車の管理)
3. 送迎行為ではなくなる。 (運転代行)

安心して活動するため

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

費用はいくらかかるのか？

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

<最もオーソドックスなパターン>

* 運営サポートベーシック+カーリース (条件: 研修受講済)

月額19,800円

※研修受講前 月額23,100円
※地域サポーター研修 33,000円/人

以下が含まれる

- ・公認CCS会費 (月額1,100円)
- ・カーリース (車検代・自動車税込)
- ・運営サポート (以下) ※車両登録費(16,500円)、自動車保険への加入が必須


運営チェック
(随時)


ツール使用
(最新)


他地域との交流
(随時)


電話・メールで
随時相談


オンライン面談
(随時)


報道・視察
サポート


運営管理
システム利用

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

一人当たりの負担はいくらか？

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

補助と利用割合による

例

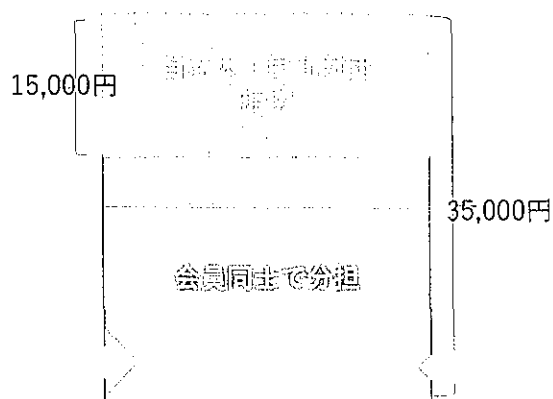
経費 月35,000円
補助金 月15,000円

会員同士で分担する費用 月20,000円

稼働件数 40件

稼働1件あたり500円 × 利用件数

※一人当たりの負担の基本的な考え方であり、実際の分担の仕方はツアー等もあり預けた金額割合に応じて費用分担している。

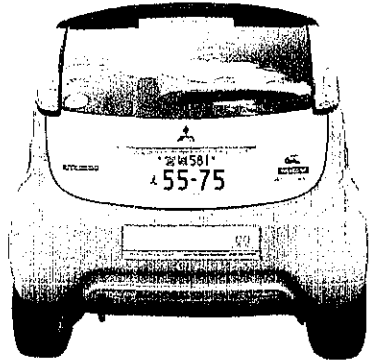


地域の経費負担比率の例

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

連携による経費負担

CCSスポンサー制度



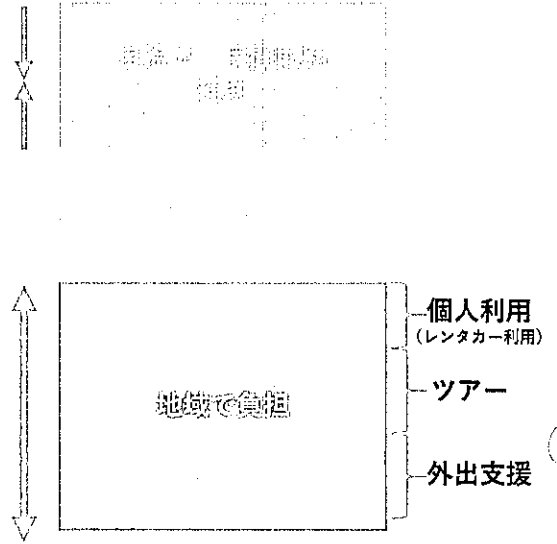
カーシェア協会へ
20%

寄付金の内訳は
地域80% 協会20%

石巻市内10社が参画

(金融・病院・自動車・電子部品・保険・コールセンター)

地域の経費負担比率の例



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.



他地域との交流 (随時)

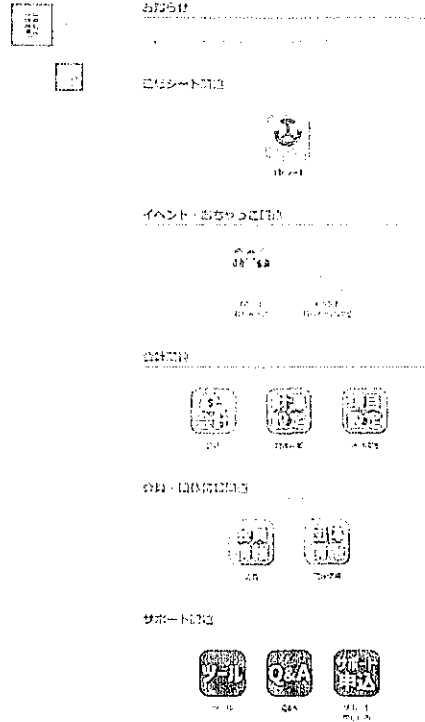


Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.



運営管理
システム利用

- ・ 利用状況
- ・ 会員ごとの負担額
- ・ 助成金の執行状況
- ・ 総会の資料
- ・ ツールのダウンロード他



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All Rights Reserved.

事例紹介 (門協カーシェア会)



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All Rights Reserved.

門協カーシェア会結成経緯

2017年2月説明会
→テスト的にスタート



様々な実践と協議を経て
2017年3月「門協カーシェア会」スタート



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

門協カーシェア会の活動①

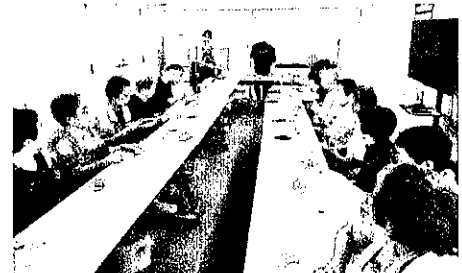
おちゃっこ ※月1回



収支報告の会 ※3～4カ月に1回



総会 ※年1回

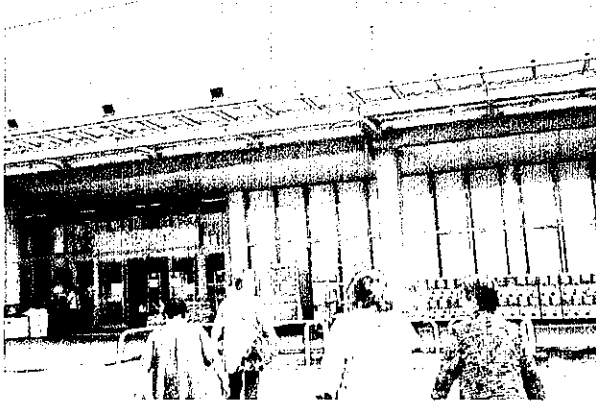


お茶っこ実施回数9回 参加人数計135名 (2018年4月～2019年3月)

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

門脇カーシェア会の活動②

買い物ツアー ※不定期



Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

門脇カーシェア会の活動③

お出かけ ※不定期



旅行イベント9回 参加人数計138名 (2018年4月～2019年3月 (12カ月))

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

門脇カーシェア会の活動⑤

門脇カーシェア会 運行カレンダー

日本カーシェアリング協会
〒916-0813
TEL: 0225-22-1453
TEL: 070-6494-6347 (本会)

令和元年 8月

ドット印-さんの名前が入っている日が利用可能日です
※利用希望の場合は、下記連絡先の財部さんへ連絡してください。調整していただく時間があるので、できれば2日前までに連絡してください。

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

門脇カーシェア会【連絡担当】阿部さん 090-XXXX-XXXX

運行カレンダー

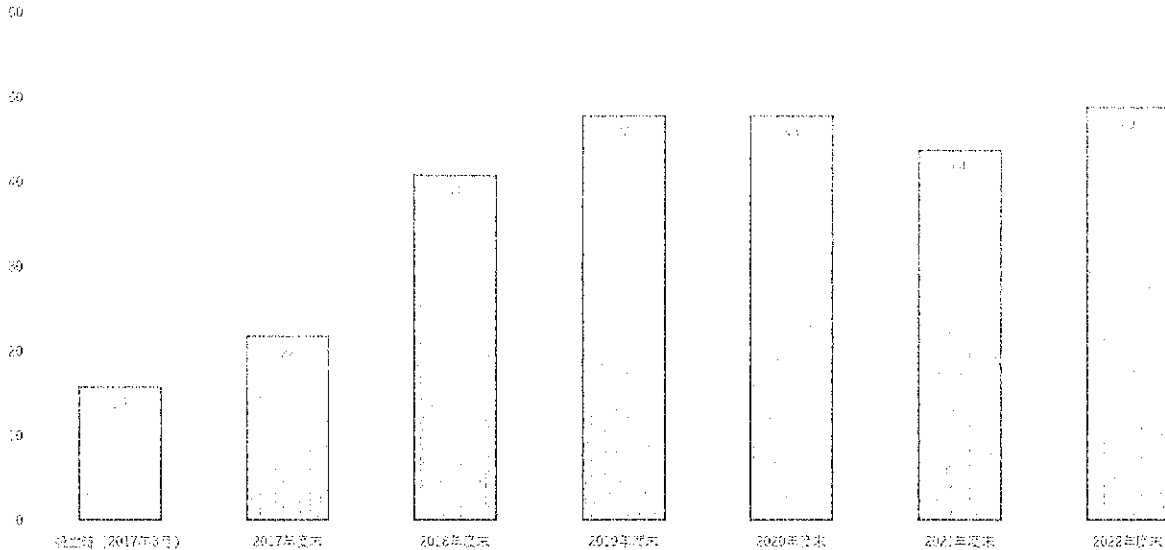
運転チェックシート

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

運転チェックシート

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

会員数の推移

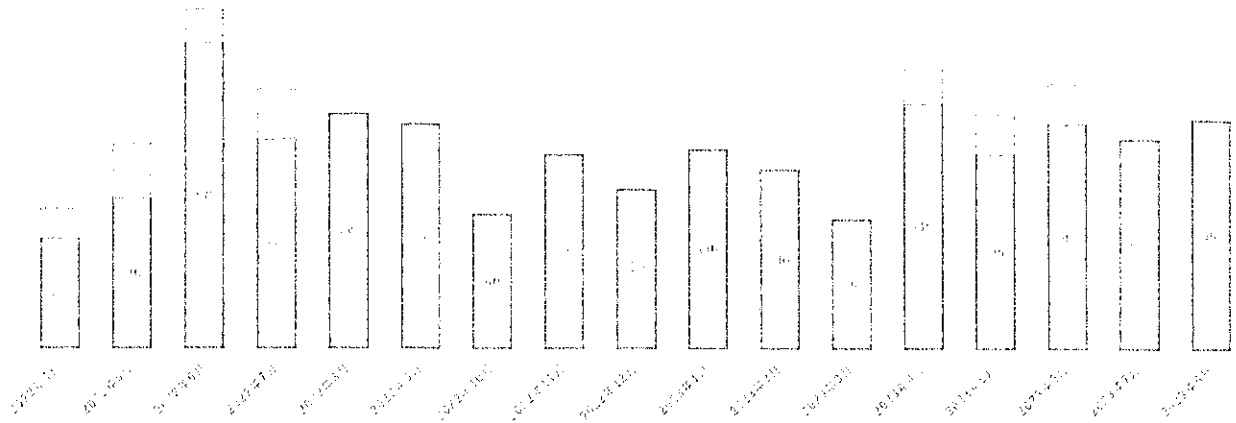


設立時より33名増

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.

月別利用人数

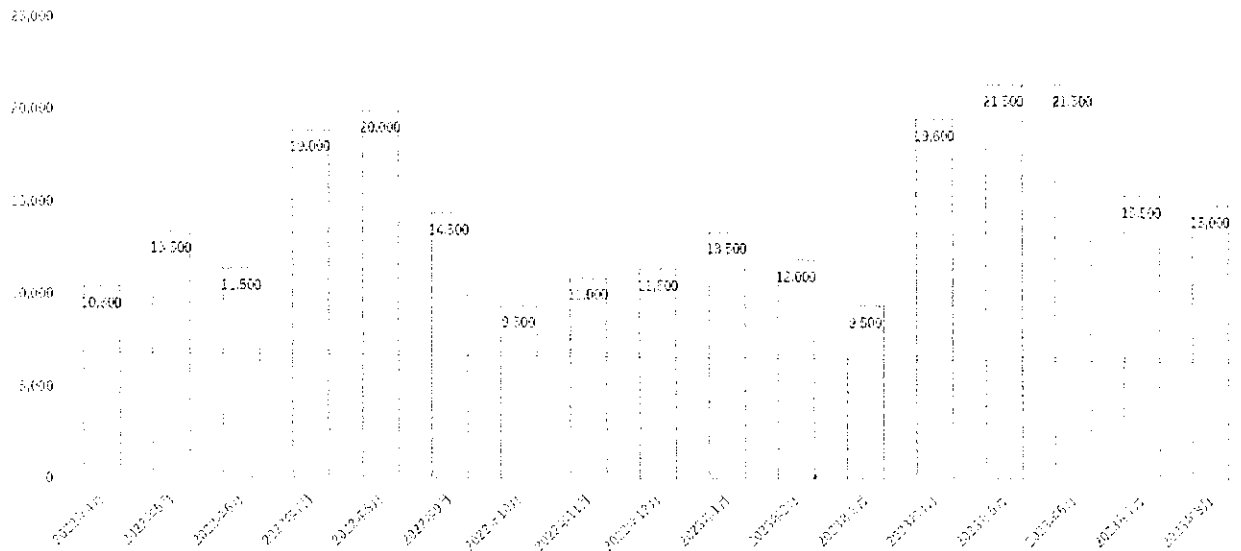
ロビー利用 イベント利用



月平均延べ利用人数：43人

Copyright © 2021 Japan Car Share Association. All rights reserved.

預り金の推移



預かり金の月平均：14,652円

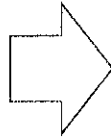
Copyright © 2021 Japan Car Share Association. All rights reserved.

門脇カーシェア会の積立ルール

外出支援・個人利用：5km毎500円

買い物ツアー：往復500円

旅行：参加費平均3,500円



年一回の総会で精算

- ・利用頻度に応じて分配
- ・足りなければ利用頻度に応じて平等に徴収

貴重な財源！
積極的に旅に
よう！

Copyright © 2021 Japan Car Sharing Association. All rights reserved.



※2022年10月現在

会員45名（男性13名、女性32名）平均年齢78歳 みんなで楽しくやっています！